

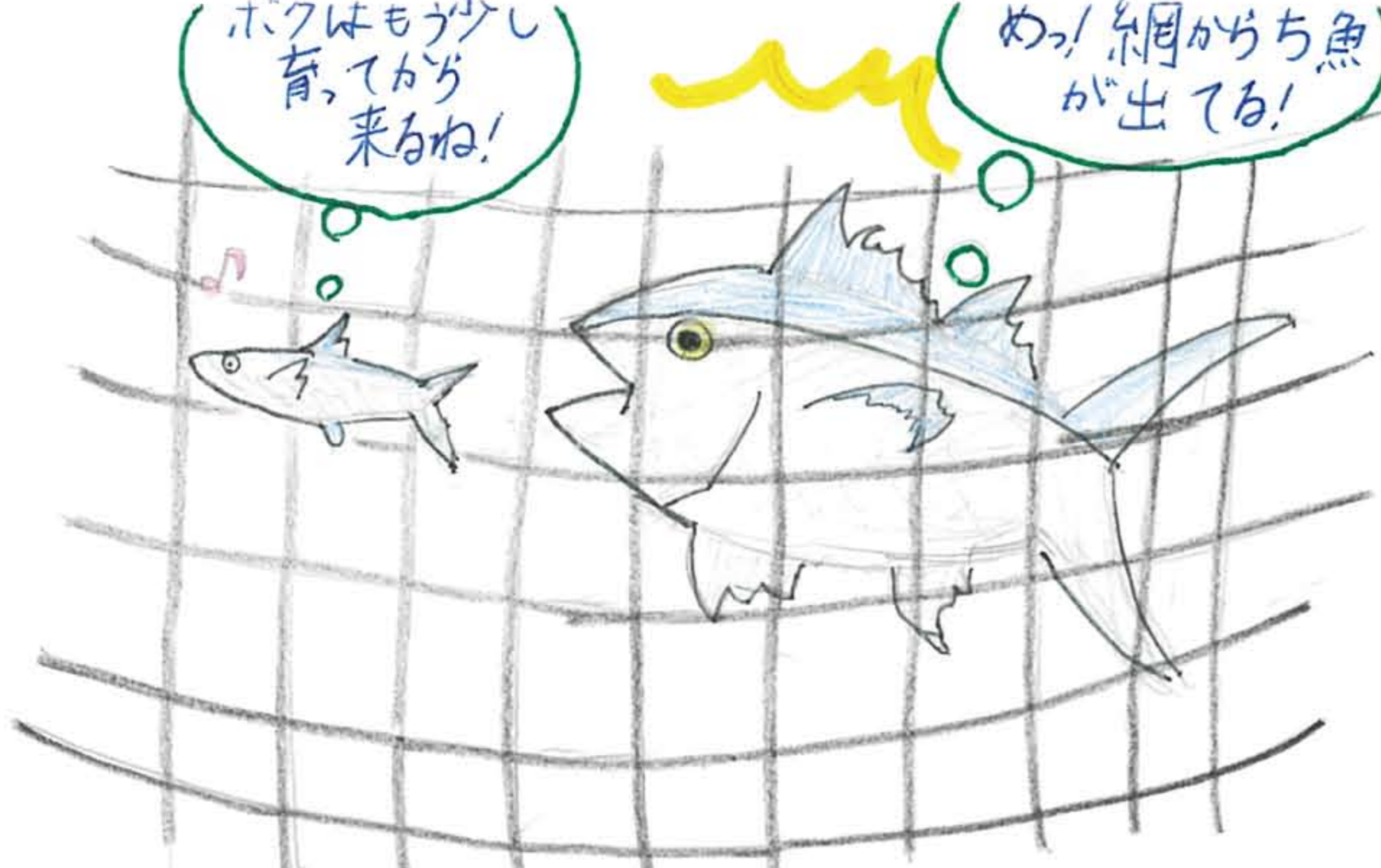
小さかなフーン新聞

学校名
お茶の水女子
大学附属小学校
学年
六年三組
氏名
川瀬史佳

水産物が減っている!? 守れ! おさかな達!

最近、水産物がぐんと減っているように見えます。その原因は、主に、とりすぎや海の汚染によるものです。では、そのとりすぎや海の汚染から、人間はどうやって魚を守っているのでしょうか。今回は魚の守り方についてまとめようと思います。

小さい魚は出られるが大きい魚は出られない



網目を大きくすると...

魚を守る手段も沢山あります。まず、魚は親になる子供を産み、さらにその子供が親になると増えていきます。が、その増え方も多すぎると、魚が減っていきます。それについての対策は、魚ごとのとってよい量が定められています。禁漁区、禁漁時間を定める。漁法ごとの漁船隻数が制限される。産卵時期は魚をとらない。あみ目を大きくして小さい魚をとらないようにする。などが挙げられます。次に、海を汚してしまったり、魚が減ってしまうことに対する対策です。海に特に有害とされるプラスチックゴミを捨てる工場・生活排水を排出しない。などが挙げられます。ボク達にもできる事を考えよう!



魚を守れ!

本気に魚は減っている?

最初に「水産物がぐんと減っている」と記しましたが、本当にそうなのでしょうか。日本の水あげ量は、一九八八年は千二百万トンでしたが（ピーク時）、二〇〇〇年は四百七十万トンまで減っています。三分の一です。

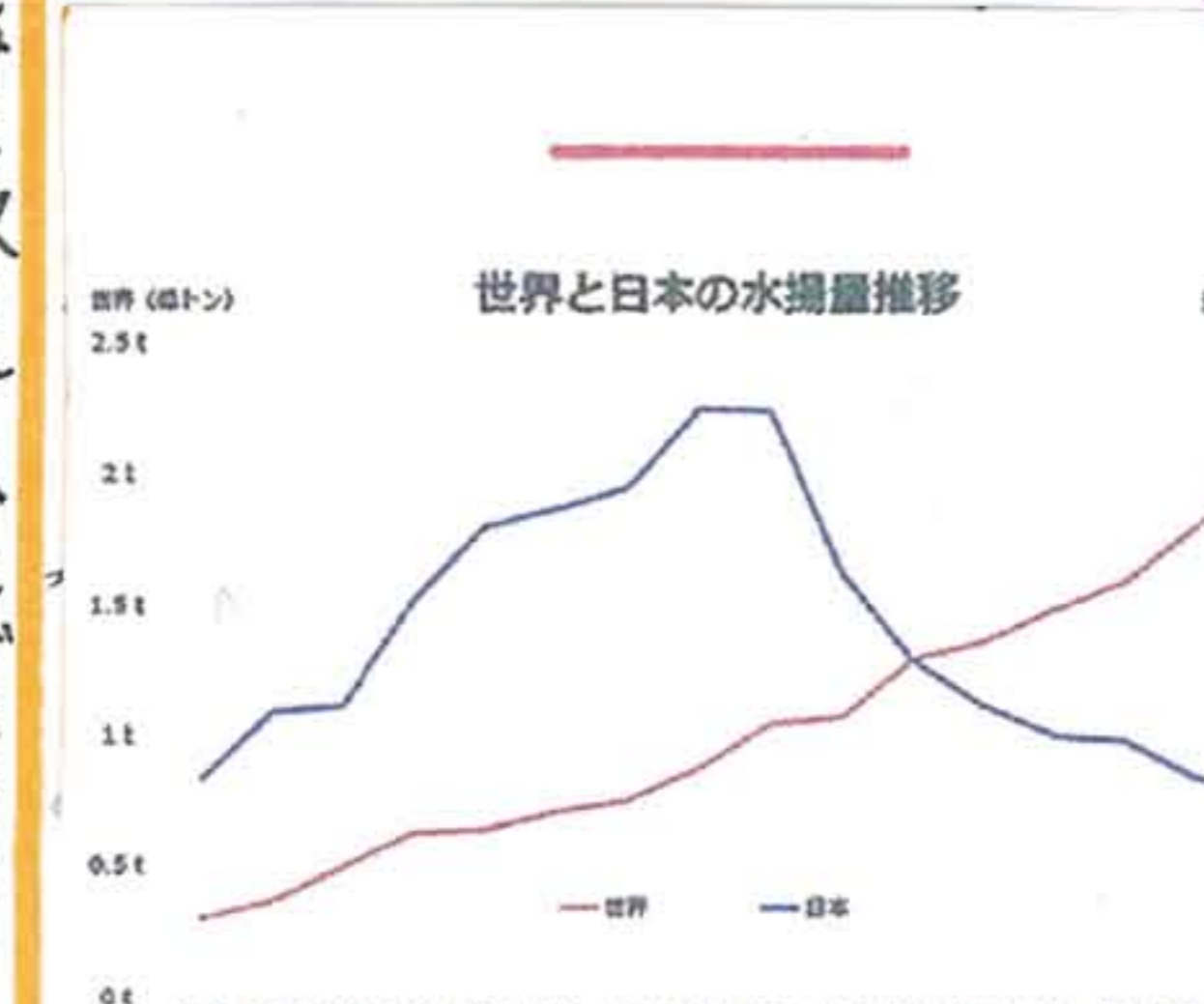
色々進化している養殖業

魚を守る工夫の中に「養殖業」というのがあります。養殖業は魚をいけすの中で育てる方法です。そして、その養殖も進化しています。例えば、おひし、昔に比べ、今の養殖魚は脂がのり、おいしくなっています。また、とこでもう育つたなどの「トレーサビリティ」というシステムを使い、安心安全にもなっています。

まとめ考え

では、まとめよう。魚を守る対策は、とる魚の量が定められている。小さな魚はとらないようにする。産卵時期は魚をとらない。海に有害とされる...

次に、世界全体の水あげ量は、日本と同じように下がっていること、思いつく、順調に上がっています。不思議ですね。そして、このことから、新たな減少理由として、日本がとる前に外国がとってしまう。



世界と日本の水揚量の変化
世界は上がっているが、日本は下がっているのが読みとれる。



近大スグロくん
かす事のできない食べ物です。しかし、その魚が全良卓から消えてしまうかもしれない。魚という食べ物ではなく、生命に、世界全体で注目する事が大切だと私は思っています。海には魚だけではない。沢山の生物がいます。みんなを守らねばなりません。

